

安全上のご注意

必ずお守りください

比率計

誤差比率・絶対比率・濃度比率・回転数差・通過速度・時間差

基本入力 基本入力 基本入力 差動入力
DT-5TXR-RMTR/DT-5TXR-DRTR
 差動入力 基本入力 差動入力 差動入力
DT-5TFR-RMTR/DT-5TFR-DRTR

取扱説明書



※DOP-RMTR、またはDOP-DRTRは比率用オプションですが、出荷時にはセット（内蔵）されています。

この度は、弊社の比率計をお買い求め頂き、誠に有難うございます。当製品の機能を十分に発揮させ、安全に永くご使用頂くために、必ずご使用前に本取扱説明書をお読み下さい。

※オプション付をご購入のお客様へ
 オプション部については、オプションに添付の取扱説明書をご覧ください。

運転、保守・点検の前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで正しくお使いください。

お使いになられる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

運転、保守・点検の前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてについて熟読してからご使用してください。この取扱説明書では、注意事項を「危険」「警告」および「注意」として区分しています。いずれも安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。

危険 この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

警告 取扱いを誤った場合に、重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合を示しています。

注意 取扱いを誤った場合に、軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合を示しています。

●免責事項について

- ・本書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。
- ・地震、当社に責任のない火災、第三者の行為、その他事故、お客様の故意または過失による誤用その他異常な条件下での使用により生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。
- ・保証規定については、付属の保証書をお読みください。

⚠ 注意

感電注意
接続時、点検時は必ず電源をOFFにする。
 感電の恐れがあります。

本体側面の通風穴をふさがない。
物を入れない。
 異常発熱や故障の恐れがあります。

濡れた手（汗も含む）で接続、点検はしない。
 感電の恐れがあります。

⚠ ご使用前の諸注意

- 電源**
- 必ず規定電圧（AC 電源仕様 AC85 ~ 264V/DC 電源仕様 DC9 ~ 35V）でご使用ください。
 - インバータ出力（モータを接続する出力）は電源として使用できません。

- 入力信号線**
- 検出器からの接続線は、強電線（電源線、動力線、高圧線など）と同一束線、平行配線、同一金属管配線などにしないでください。別配線にしないと、ノイズなどが信号線に乗り、誤動作の原因になります。
 - 入力の接続線は、必ずシールド線をご使用になるか、金属管配線をして、できるだけ短くしておいてください。

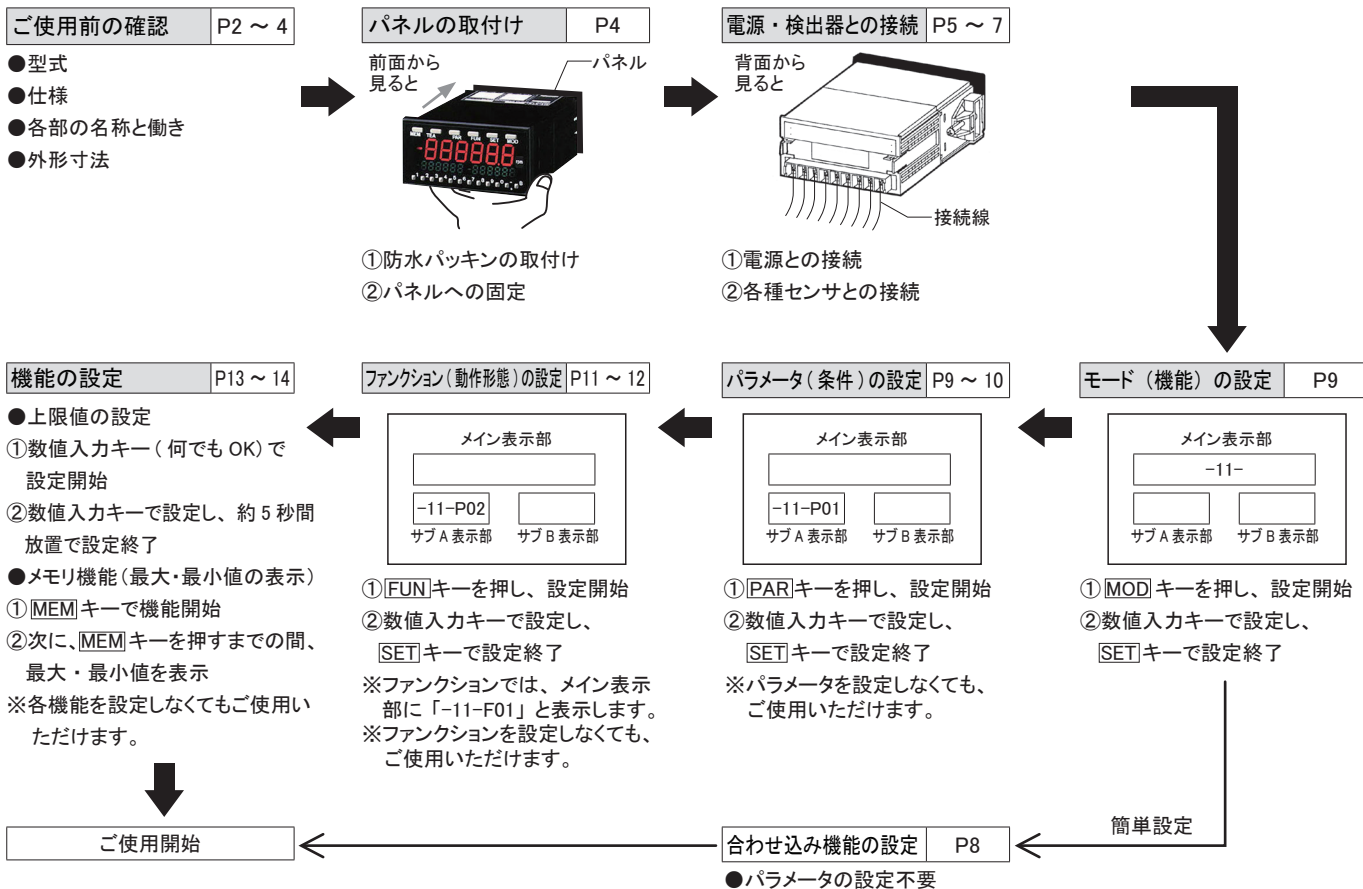
- ターミナル**
- 振動などでネジが緩んでいないかどうか、時間を置いてご確認ください。

- 使用環境**
- 設置場所は下記の場所を避けてください。
 - ・直射日光が当たる場所、周囲温度が0 ~ 45℃の範囲を超える場所。
 - ・相対湿度が35 ~ 85%の範囲を超える場所、湿度変化が急激で結露するような場所。
 - ・腐敗性ガスや、可燃性ガスのある場所。
 - ・粉塵、塩分、鉄分が多い場所。
 - ・ノイズ（静電気を含む）の影響を受けやすい場所。

ご使用前に…

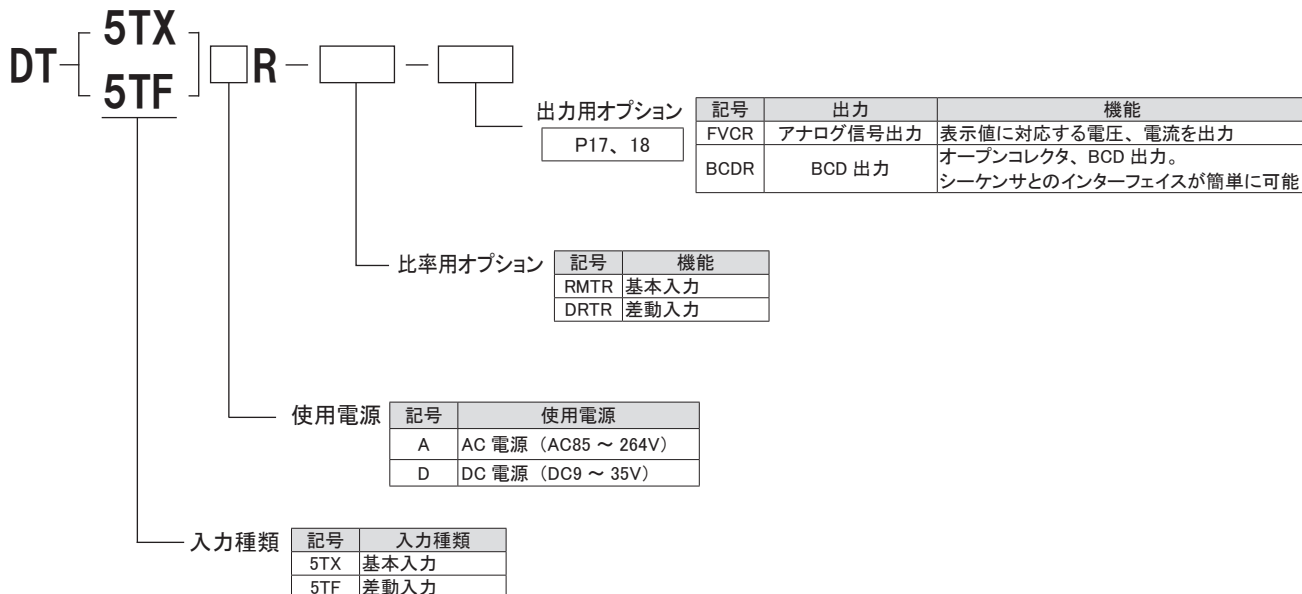
取付から使用開始まで

本器はお客様の計測目的に合わせて、ご使用いただけるよう設計しています。
ご使用いただくにあたり、以下の手順で取付から開始までお願いします。



型式

ご購入いただいた製品の型式をお確かめ下さい。



※上記の組み合わせについては、P18「DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR シリーズ一覧」をご参照ください。
※DOP-RMTR、またはDOP-DRTRは比率用オプションですが、出荷時にはセット（内蔵）されています。

仕様

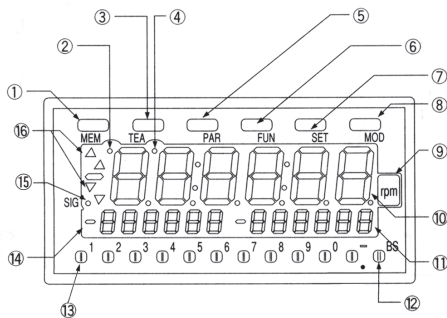
型式		DT-5TXR-RMTR/DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR/DT-5TFR-DRTR					
表示	動作モード	誤差比率	絶対比率	濃度比率	回転数差	通過速度	時間差
	その1	-99999 ~ 99999 ± 5桁	0 ~ 99999 5桁	-	-99999 ~ 99999 ± 5桁	0 ~ 99999 5桁	0:00:00 ~ 0:59:59 (時分秒 60進表示)
	その2	-	-	-	-	-	0:00 ~ 999:99 (秒:1/100秒 10進表示)
少数点位置		ゼロサブレス付					
表示部		10 ⁻¹ ~ 10 ⁻⁴					
表示部		メイン表示部：赤色 7セグメント LED 文字高 15mm 6桁、サブ表示部（2個）：緑色 7セグメント LED 文字高 6.5mm 6桁 + 6桁					
入力範囲		0.0067Hz ~ 100kHz				10msec ~ 3600s	
計測精度		± 0.1%					
フィルタ		100kHz、30kHz、10kHz、20Hzをパラメータで切替。ただし、マグネチックセンサは10kHz、20Hzのみ、接点は20Hzのみ。					
表示周期		0.2、0.5、1、2、5、10、15、30、60秒（パラメータ設定で変更可能） トランジスタ出力、BCD出力もこの周期でデータを更新。電圧出力は10msでデータを更新する。					
プリスケール機能		前面スイッチによるパラメータ設定方式。表示値のティーチング（合わせ込み）も可能。					-
メモリ機能		計測値の最大・最小値を記憶、表示する。					
上下限值		上下限値をサブ表示部に緑色 LED で表示可能					
オートゼロ時間		0.1 ~ 150 秒			0.1 ~ 3600 秒		
予測演算		パルス入力後の経過時間に従って、表示値を更新。					
絶縁抵抗		10M Ω 以上（DC500Vメガにて）					
耐電性		AC1500V 以上 1min					
耐ノイズ		電源端子ノーマル / コモンモード ± 1500V					
耐振動		JIS C-0911 に準拠 振動周波数 10 ~ 55Hz、片振幅 0.5mm、XYZ 方向各 10 分間					
使用周囲温度		0 ~ 45°C（ただし結露のないこと）					
使用周囲湿度		35 ~ 85% RH（ただし結露のないこと）					
使用周囲雰囲気		腐食性ガスのないこと					
保護機能		前面パネル IP66（相当）、後部端子台 IP20					
ケース材質		ABS樹脂					
外形寸法		W96 × H48 × D134min (DIN)					
質量		出力付 350g					

※上記仕様以外に入力仕様があります。詳しくは P5 ~ 7 をご参照ください。

※ DOP-RMTR、または DOP-DRTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット（内蔵）されています。

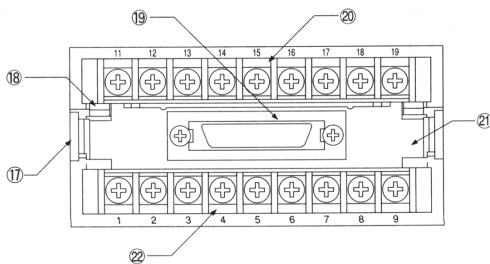
各部の名称と働き

●前面部



No.	名称	働き
①	メモリーキー	最大値、最小値を表示するときに使用
②	メモリーモードランプ	メモリーキーを押すと点滅
③	ティーチキー	合わせ込み機能 (P7 参照) 設定時に使用
④	ティーチモードランプ	ティーチキーを押すと点灯
⑤	パラメータキー	パラメータの設定時に使用
⑥	ファンクションキー	ファンクションの設定時に使用
⑦	セットキー	パラメータの設定終了時に使用
⑧	モードキー	各モードの選択に使用
⑨	単位シールスペース	付属の単位シールの中から必要なシールを貼付するスペース
⑩	メイン表示部	計測値を表示
⑪	サブ B 表示部	下限値・最小値を表示
⑫	バックスペースキー	パラメータ設定時などに使用し、桁数字の修正を行う
⑬	数値入力キー	パラメータや上下限値の設定に使用
⑭	サブ A 表示部	上限値・最大値を表示
⑮	シグナルランプ	センサ信号入力時に点灯
⑯	上下限出力表示部	上下限値、上限値、下限値比較出力状態を示す

●裏面部



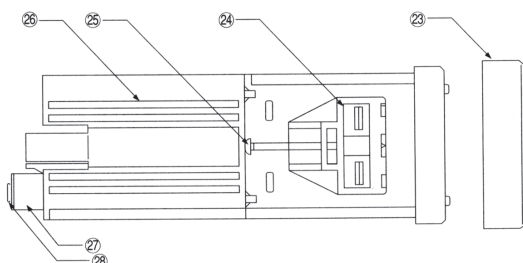
オプション・単位シール

分		秒		時:分:秒		分:秒		%	
PS	ℓ/h	cm ³ /min	m ³ /h	分	PS	ℓ/h	cm ³ /min	m ³ /h	FVT
秒	°C	kHz	rpm	ℓ/min	秒	°C	kHz	rpm	CPT
時:分:秒	sec	min	rps	Hz	h:m:s	sec	min	rps	TRT
分:秒	秒	m/h	mm/s	ℓ/s	r/min	ms	秒	m/h	FVC
	10	m/h	mm/s	ℓ/s	r/min	ms	秒	m/h	TRC
		m/min	km/h	mm/min				m/min	BCD
		m/min	km/h	mm/min				m/min	RMT
		m/min	km/h	mm/min				m/min	DRT
		m/min	km/h	mm/min				m/min	SDT
		m/min	km/h	mm/min				m/min	SDC

※1 プロテクトカバー用単位シール
プロテクトカバーに貼付してください。
※2 単位シールスペース用単位シール
※3 オプションを購入された場合、オプション型式に対応するシールを、本器銘板に貼付してください。

No.	名称
⑰	リアパネル取外し用レバー
⑱	出力用コネクタ（第2オプション装着時）
⑳	比率用オプション端子台
㉑	リアパネル
㉒	標準端子台

●側面部



No.	名称
㉓	プロテクトカバー
㉔	取付アダプタ
㉕	取付ネジ
㉖	通風口
㉗	ターミナル
㉘	ターミナルカバー

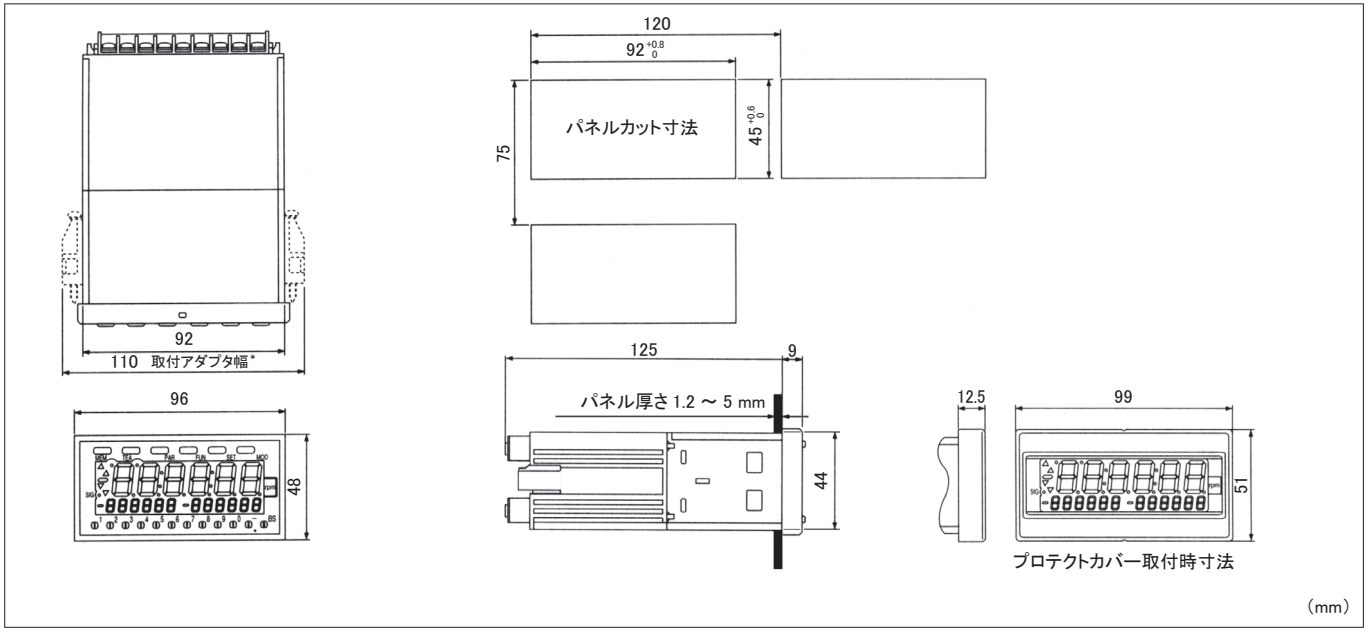
◎設定方法については、下記の通りです。

モード : P9
パラメータ : P9 ~ 10
ファンクション: P11 ~ 12

◎接続方法については、P5 ~ 7 をご参照ください。

※ DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR 各シリーズ共、オプション（基板）は内蔵式のため本器外部からは端子台（比率用オプション）またはコネクタ（出力用オプション）のみ確認することが出来ます。

外形寸法



パネルへの取付け

下記の要領で、本器をパネルへ取付けてください。
取付パネルの厚さ(1.2 ~ 5mm)をお確かめのうえ、取付作業を行ってください。

1 取付アダプタを本器から取り出す。
取付ネジを押しながら、取付アダプタを外に広げて外します。

取付アダプタ

取付ネジ

2 付属の防水パッキンをパネル表面に取り付ける。
①パッキンシートから、切り取り線が入った外枠(リケイ紙+防水パッキン)をはがします。(防水パッキンは両面に粘着のりが付いています。)
②パネル表面から、穴の左右に合わせて、ずれのないように防水パッキンを取付け、リケイ紙をはがします。
※防水パッキンが曲がったり、しわが出来たりしないように取り付けてください。また、防水パッキンは上下左右に伸ばさないでください。

3 本器を水平にして、パネル面に差込む。
防水パッキン両面(粘着部)が本器、パネル面に確実に着くように本器を押し込みます。

※パネル厚さ: 1.2 ~ 5mm

4 取付アダプタを本器に取付ける。
取付アダプタは取付穴に横からはめ込みます。

※パネル取付後の本器後方からの様子

5 取付ネジで本器をパネル面に固定する。
取付ネジは規定トルク 6.5kgf・cm 内で締め付けます。*

※取付ネジを強く締めすぎると、取付アダプタが変形することがあるので、ご注意ください。

⑧ 防水について

- ・ 前面パネル: IP66(相当)
- ・ 後部端子台: IP20(非防水)

設置場所は下記の場所を避けてください。

- ① 常時、水が直接かかる場所。
- ② 油、薬品などの飛沫がある場所。
- ③ 後部または側面へ水の飛沫がある場所。

※前面パネルについては、IP66(相当)の防水対応となっておりますが、水滴が付いた場合は出来るだけ早く拭き取ってください。

電源、各種検出器との接続 (DT-5TXR-RMTR)

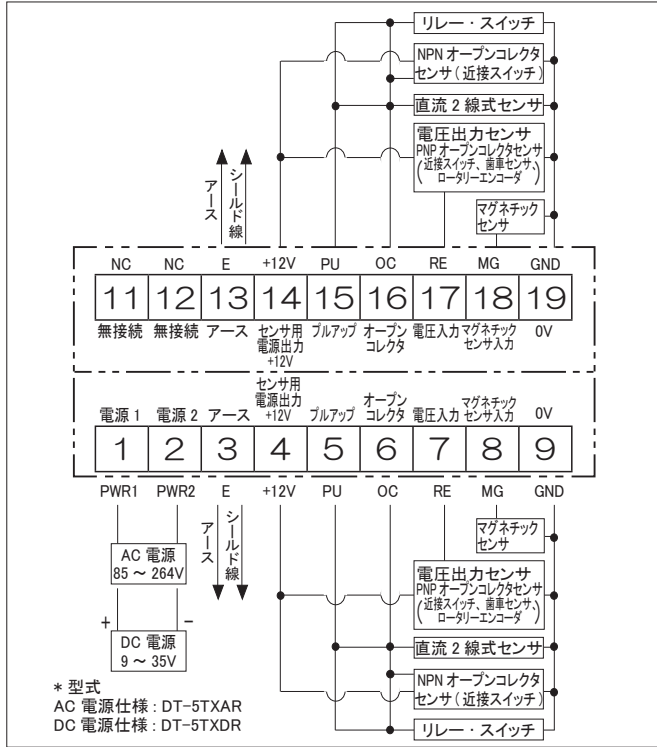
⑧ 感電防止のため、必ず電源を OFF にしてください。必ず規定電圧 (AC 電源仕様 AC85 ~ 264V/DC 電源仕様 DC9 ~ 35V) でご使用ください。インバータの出力 (モータを接続する出力) は電源として使用できません。検出器からの接続線は、強電線 (電源線、動力線、高圧線など) と同一束線、平行配線、同一金属管配線などにしないでください。別配線にしないと、ノイズなどが信号線に乗り、誤作動の原因になります。入力の接続線は、必ずシールド線をご使用になるか、金属管配線をして、できるだけ短くしておいてください。

◎接続上の注意…P7をご参照ください。

DT-5TXR-RMTR の場合

DOP-RMTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット (内蔵) されています。

●端子台の接続図



* 型式
AC 電源仕様: DT-5TXAR
DC 電源仕様: DT-5TXDR

●入力仕様 (DT-5TXR)

項目	内容	
電源	交流 (5TXAR)	AC85 ~ 264V (50/60Hz)
	直流 (5TXDR)	DC9 ~ 35V
センサ用電源出力	DC + 12V 最大 150mA (比率入力用オプション RMTR 装備時は合計して 150mA まで)	
オープンコレクタ入力	LO 入力	負荷容量 10mA 以上 0 ~ 3V
	HI 入力	漏れ電流 0.5mA 以下 最高周波数 100kHz
接点入力 (プルアップ + オープンコレクタ入力)	無電圧接点用。⑤と⑥をショートして用いる。 接点容量	電圧 12V 電流 15mA 以上 最高周波数 20Hz
電圧入力	LO 入力	0 ~ 1.5V
	HI 入力	4.0 ~ 30V 入力抵抗 10kΩ 最高周波数 30kHz 入力抵抗 10kΩ
マグネチックセンサ入力	入力電圧	100Hz まで 0.3Vp-p 以上 1kHz まで 1.5Vp-p 以上 10kHz まで 6Vp-p 最高周波数 10kHz

●入力仕様 (DOP-RMTR)

項目	内容	
センサ用電源出力	DC + 12V 基本部の +12V 出力と合計して 150mA まで	
オープンコレクタ入力	LO 入力	負荷容量 10mA 以上 0 ~ 3V
	HI 入力	漏れ電流 0.5mA 以下 最高周波数 100kHz
接点入力 (プルアップ + オープンコレクタ入力)	無電圧接点用。⑤と⑥をショートして用いる。 接点容量	電圧 12V 電流 15mA 以上 最高周波数 20Hz
電圧入力	LO 入力	0 ~ 1.5V
	HI 入力	4.0 ~ 30V 入力抵抗 10kΩ 最高周波数 30kHz 入力抵抗 10kΩ
マグネチックセンサ入力	入力電圧	100Hz まで 0.3Vp-p 以上 1kHz まで 1.5Vp-p 以上 10kHz まで 6Vp-p 最高周波数 10kHz

●検出器との接続一覧 (DT-5TXR 端子台)

下表は入力信号タイプ別に適用する検出器、接続端子 No. を表しています。左記接続図と照らし合わせ、確認してください。

入力信号のタイプ 接点信号	検出器	当社製品型式	接続端子
オープンコレクタ	リレー・スイッチ	—	5-6-9
	光電スイッチ	SE-R2	4-6-9
矩形波	近接スイッチ	SE-P12-1	
	近接スイッチ	SE-P12	
	ロータリーエンコーダ	RE-1-□C	4-7-9
正弦波	直線センサ	SE-G2	8-9
	マグネチックセンサ	SE-M	

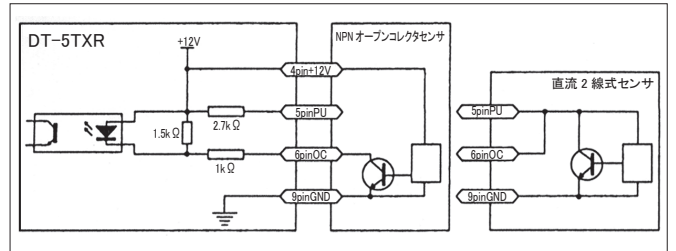
注 1 当社のオートレータ LA(U)-□A からのパルス出力は、接続端子 7-9 に接続してください。
注 2 検出器の配線は、定められた端子に接続し、他の端子は必ず空端子にしておいてください。複数の検出器の同時接続はできません。
注 3 センサ 1 台で 2 台以上の回転計を接続される場合、センサの電源はどれか 1 台からとってください。

●マグネチックセンサ出力電圧 (DT-5TXR 端子台)

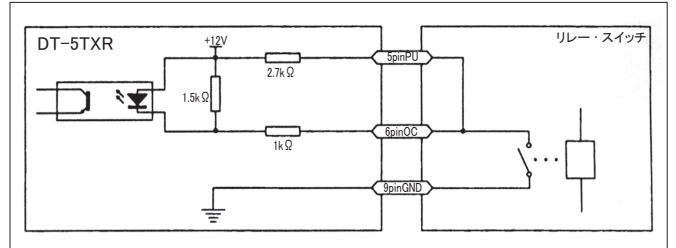
周波数	出力電圧
10Hz	0.3Vp-p 以上必要
100Hz	0.3Vp-p 以上必要
1000Hz	1.5Vp-p 以上必要
10000Hz	6.0Vp-p 以上必要

●入力回路

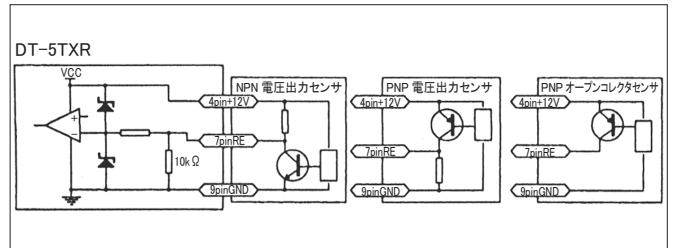
オープンコレクタセンサ



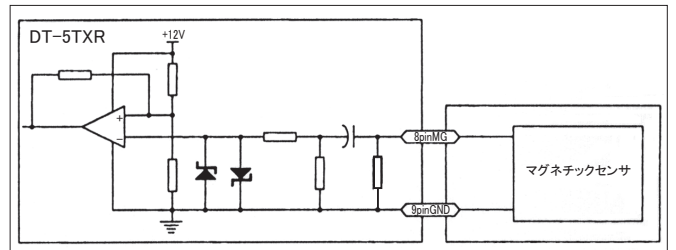
リレー・スイッチ



電圧出力センサ



マグネチックセンサ



電源、各種検出器との接続 (DT-5TXR-DRTR)

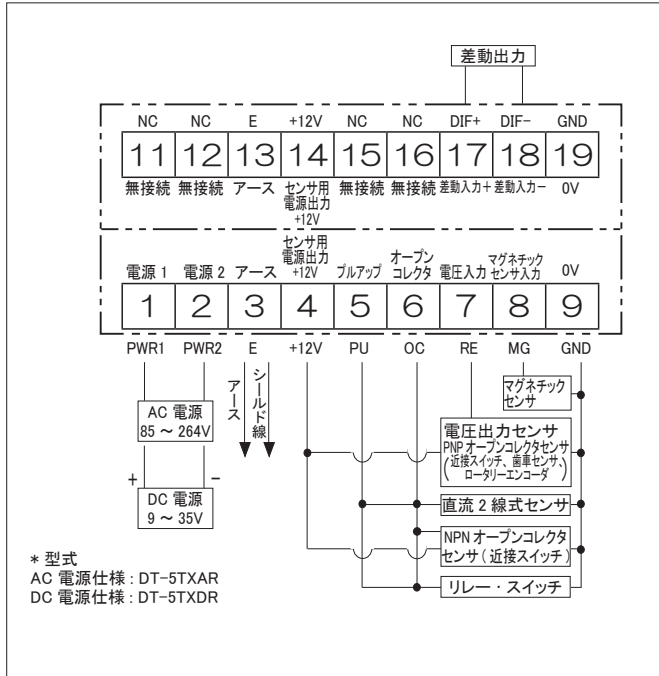
⑧ 感電防止のため、必ず電源を OFF にしてください。必ず規定電圧 (AC 電源仕様 AC85 ~ 264V/DC 電源仕様 DC9 ~ 35V) でご使用ください。インバータの出力 (モータを接続する出力) は電源として使用できません。検出器からの接続線は、強電線 (電源線、動力線、高圧線など) と同一束線、平行配線、同一金属管配線などにしないでください。別配線にしないと、ノイズなどが信号線に乗り、誤作動の原因になります。入力の接続線は、必ずシールド線をご使用になるか、金属管配線をして、できるだけ短くしておいてください。

◎接続上の注意…次ページをご参照ください。

DT-5TXR-DRTR の場合

DOP-DRTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット (内蔵) されています。

●端子台の接続図



* 型式
AC 電源仕様: DT-5TXAR
DC 電源仕様: DT-5TXDR

●入力仕様 (DT-5TXR)

項目	内容	
電源	交流 (5TXAR)	AC85 ~ 264V(50/60Hz)
	直流 (5TXDR)	DC9 ~ 35V
センサ用電源出力	DC + 12V 最大 150mA (比率入力用オプション DRTR 装備時は合計して 150mA まで)	
オープンコレクタ入力	LO 入力	負荷容量 10mA 以上 0 ~ 3V
	HI 入力	漏れ電流 0.5mA 以下
	最高周波数	100kHz
接点入力 (プルアップ + オープンコレクタ入力)	無電圧接点用。⑤と⑥をショートして用いる。	
	接点容量	電圧 12V 電流 15mA 以上
	最高周波数	20Hz
電圧入力	LO 入力	0 ~ 1.5V
	HI 入力	4.0 ~ 30V
	入力抵抗	10kΩ
	最高周波数	30kHz
マグネチックセンサ入力	入力電圧	100Hz まで 0.3Vp-p 以上 1kHz まで 1.5Vp-p 以上 10kHz まで 6Vp-pv 以上
	最高周波数	10kHz

●入力仕様 (DOP-DRTR)

項目	内容	
センサ用電源出力	DC + 12V	基本部の +12V 出力と合計して 150mA まで
接続対象	差動ラインドライバ	
差動入力	差動入力電圧	
		V _{DIF}
	最高周波数	100kHz

●検出器との接続一覧 (DT-5TXR 端子台)

下表は入力信号タイプ別に適用する検出器、接続端子 No. を表しています。左記接続図と照らし合わせ、確認してください。ください。

入力信号のタイプ 接点信号	検出器	当社製品型式	接続端子
オープンコレクタ	リレー・スイッチ	—	5-6-9
	光電スイッチ	SE-R2	4-6-9
	近接スイッチ	SE-P12-1	
矩形波	近接スイッチ	SE-P12	4-7-9
	ロータリーエンコーダ	RE-1-□ C	
	歯車センサ	SE-G2	
正弦波	マグネチックセンサ	SE-M	8-9

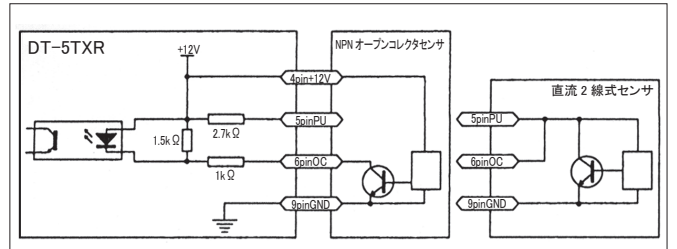
注 1 当社のオートレータ LA(U)-□ A からのパルス出力は、接続端子 7-9 に接続してください。
注 2 検出器の配線は、定められた端子に接続し、他の端子は必ず空端子にしておいてください。複数の検出器の同時接続はできません。
注 3 センサ 1 台で 2 台以上の回転計を接続される場合、センサの電源はどれか 1 台からとってください。

●マグネチックセンサ出力電圧 (DT-5TXR 端子台)

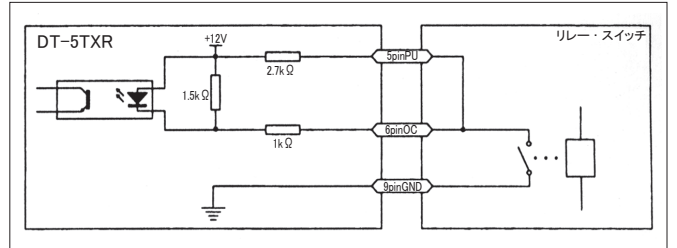
周波数	出力電圧
10Hz	0.3Vp-p 以上必要
100Hz	0.3Vp-p 以上必要
1000Hz	1.5Vp-p 以上必要
10000Hz	6.0Vp-p 以上必要

●入力回路

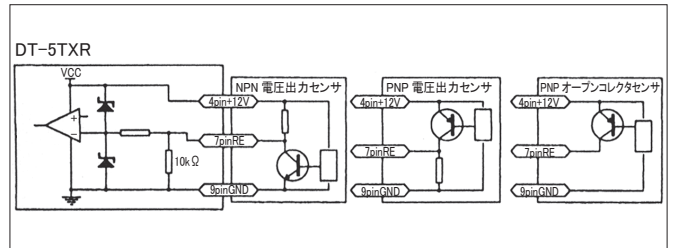
オープンコレクタセンサ



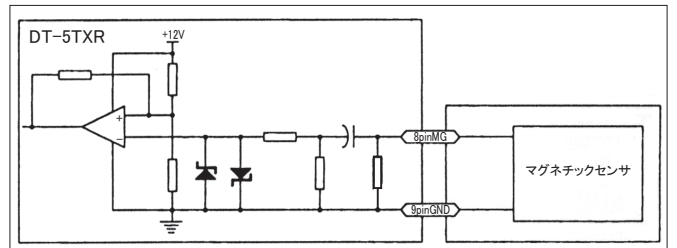
リレー・スイッチ



電圧出力センサ



マグネチックセンサ



電源、各種検出器との接続 (DT-5TFR-RMTR/DT-5TFR-DRTR)

⑧ 感電防止のため、必ず電源を OFF にしてください。必ず規定電圧 (AC 電源仕様 AC85 ~ 264V/DC 電源仕様 DC9 ~ 35V) でご使用ください。インバータの出力 (モータを接続する出力) は電源として使用できません。検出器からの接続線は、強電線 (電源線、動力線、高圧線など) と同一束線、平行配線、同一金属管配線などにしないでください。別配線にしないと、ノイズなどが信号線に乗り、誤作動の原因になります。入力の接続線は、必ずシールド線をご使用になるか、金属管配線をして、できるだけ短くしておいてください。

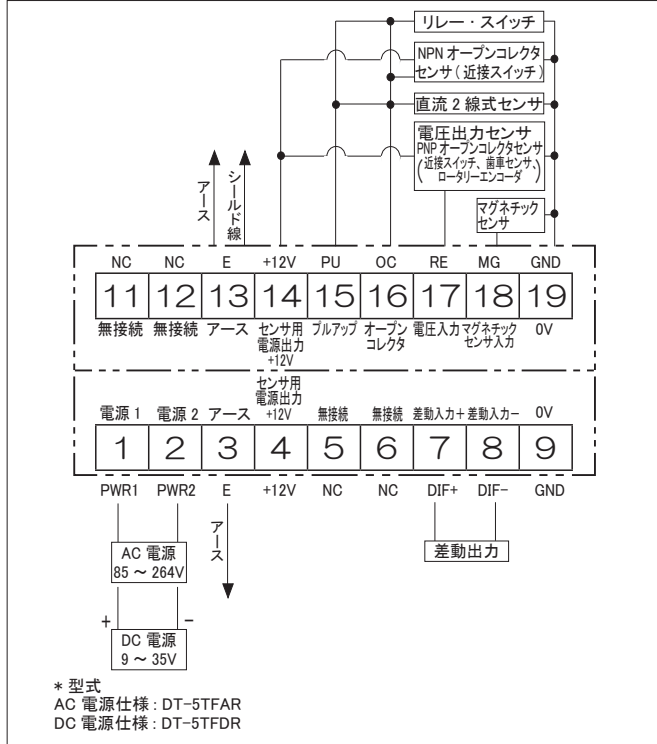
◎接続上の注意

- ・接続は必ず電源を OFF にしてください。
- ・ターミナルへ接続する圧着端子は、M3 用、幅 7mm 以下のものをご使用ください。
- ・ターミナルの接続が終われば、必ず透明のターミナルカバーを取付けてください。

DT-5TFR-RMTR の場合

DOP-RMTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット (内蔵) されています。

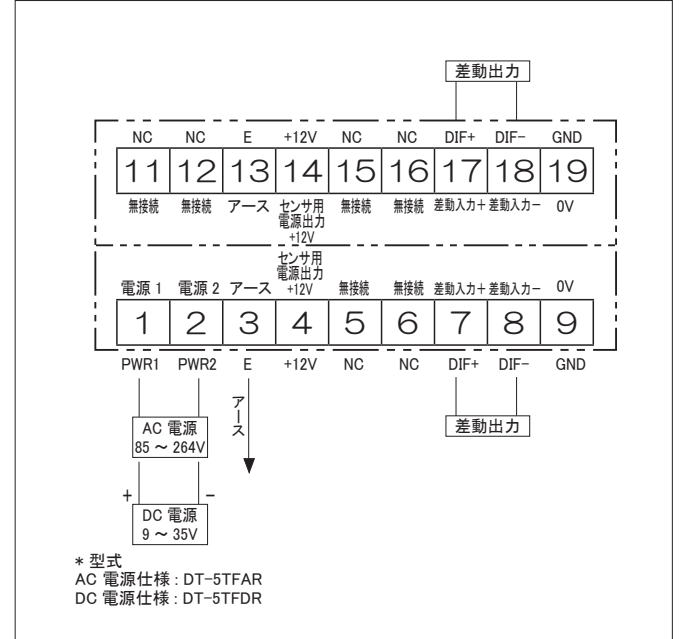
●端子台の接続図



DT-5TFR-DRTR の場合

DOP-DRTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット (内蔵) されています。

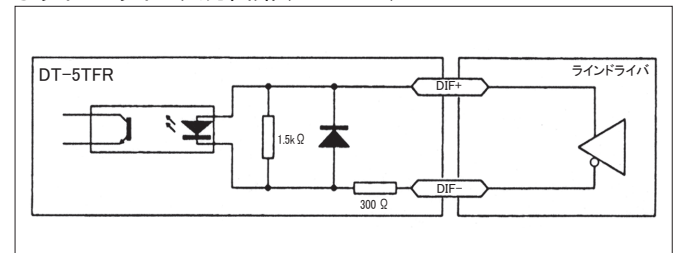
●端子台の接続図



●入力仕様 (DT-5TFR)

項目	内容	
電源	交流 (5TFAR)	AC85 ~ AC264V(50/60Hz)
	直流 (5TFDR)	DC9 ~ 35V
センサ用電源出力	DC + 12V 最大 150mA (比率入力用オプション RMTR 装備時は合計して 150mA まで)	
差動入力	接続対象	差動ラインドライバ
	差動入力電圧	
		V _{dif}
	最高周波数	100kHz

●ラインドライバ入力回路 (DT-5TFR)

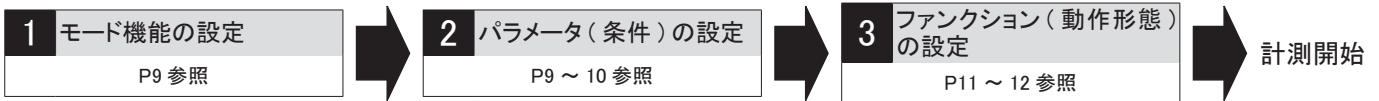


◎ DOP-RMTR/DOP-DRTR の入力仕様について

- DOP-RMTR : P5 参照
DOP-DRTR : P6 参照

基本的な設定の手順

使用目的に応じて、以下のように設定していきます。

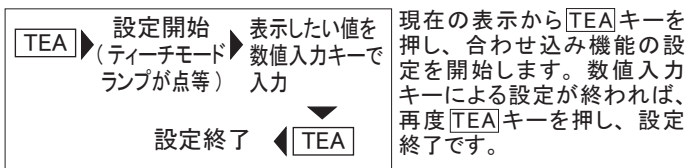


必要に応じて「上下限値の設定」→P13 や「メモリ機能」→P14 を設定します。
また、本器には面倒な計算は不要で、表示値の任意変更や誤差修正を可能にする「合わせ込み機能」が搭載されています。

合わせ込み機能の設定

実際の回転速度を確認（測定）できる場合は、下記のような簡単な方法（合わせ込み機能）で設定できます。
合わせ込み機能は面倒な計算が不要で、表示値の変更、誤差修正を前面パネルのキー操作だけでできる機能です。

■設定方法



例：絶対比率モードのとき、パルス数、減速比などが不明。
この場合、ハンドヘルド型回転計で計測し、基準側 A の回転数が 700rpm、比率側 B が 500rpm とすると、それぞれの数値をサブ表示部にインプットするだけで、パラメータ設定無しで 2 つの回転数の比率を表示することができます。

◎設定範囲

入力回転速度が 99999 以上のときは「合わせ込み機能」の範囲を超えているので、設定できません。
このとき、メイン表示部には「EE-2」*が表示されます。入力回転数を下げて設定し直すか、パラメータの設定を行なって対処してください。
*エラー表示については P16 をご参照ください。

◎数値入力キーでの設定数値の入力

サブ A、B 表示部に設定したい数値（6 桁まで）を入力する際、設定数値の各桁に対応している数値入力キーは次の通りです。

【サブ A 表示設定キー】

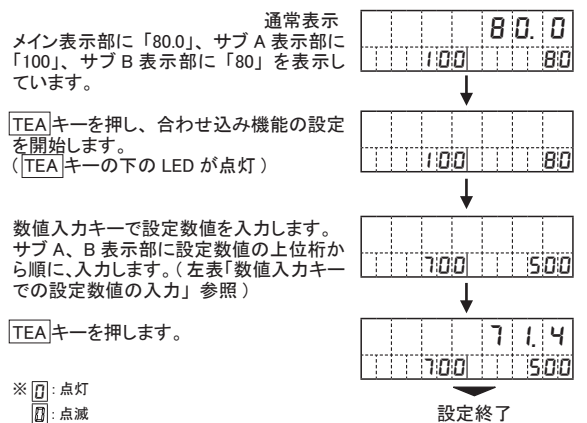
設定したい数値の桁	6	5	4	3	2	1
数値入力キー	1	2	3	4	5	6

【サブ B 表示設定キー】

設定したい数値の桁	6	5	4	3	2	1
数値入力キー	7	8	9	0	-	BS

数値入力キーを押すたびに、0 → 1 → 2 → 3 → 9 のように表示が変わります。

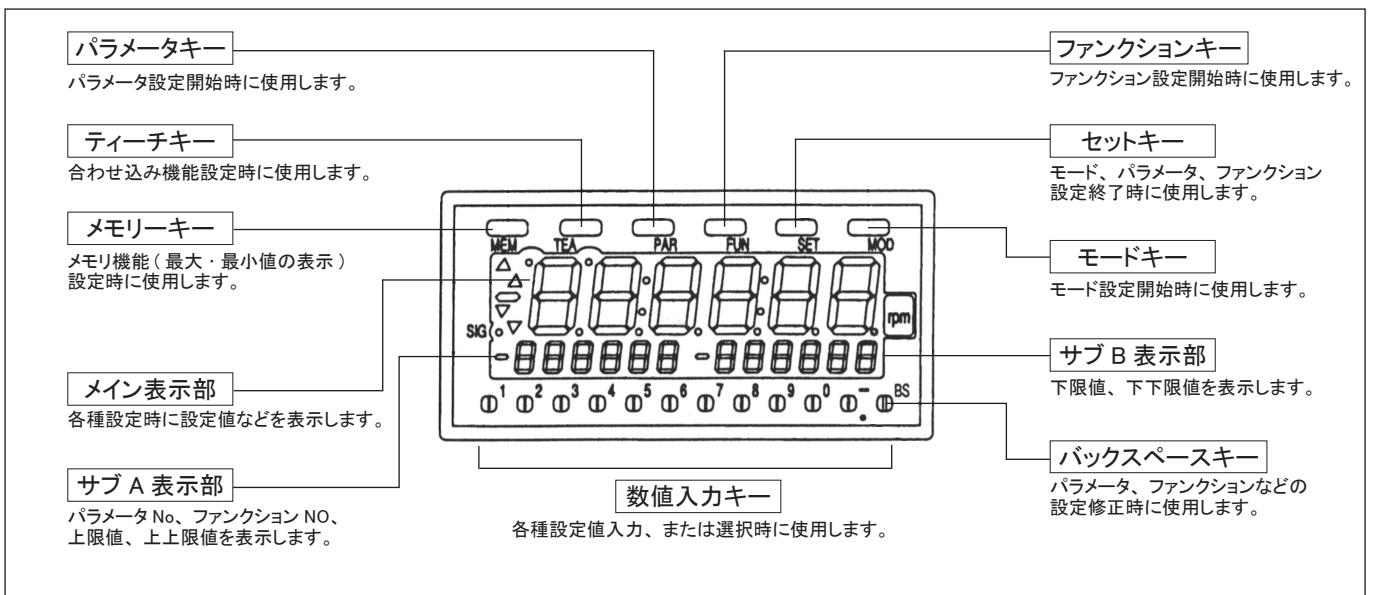
【上記例で設定】



* [点灯]
[点滅]

各種設定時に使用するキーとその用途

モード、パラメータ、ファンクション、および各種機能（上下限値の設定 / メモリ機能）を設定する際に使用する前面パネルキーは次の通りです。



モード（機能）の設定

モードには下記の通り 7 種類あり、計測目的に応じた機能を選択します。

モードNo.	モード名	用途
11	誤差比率モード	入力 A と入力 B の誤差 (B/A-1) を表示
12	絶対比率モード	入力 B ÷ 入力 A (B/A) を表示
13	濃度比率モード	入力 A、B から B の濃度中 [B/(A+B)] を比率で表示
14	回転数差モード	入力 A と入力 B の差 (B-A) を、回転数として表示
15	2 点間通過速度モード	入力 A の ON から入力 B の ON までの時間 (T) の逆数を 60 倍して表示
16	2 点間時間差モード	入力 A の ON から入力 B の ON までの時間 (T) をそのまま表示
99	テストモード	内部回路の自己チェック

※モード 99(テストモード)については、他のモードと操作方法が異なります。

詳しくは P15 をご参照ください。

※工場出荷時初期設定値はモード 11(誤差比率モード)に設定されています。

例：モード 12(絶対比率モード)を設定します。(他のモードを設定する時も、以下の手順で設定してください)

通常表示
メイン表示部に「-20.0」、サブ A 表示部に「100」、サブ B 表示部に「80」を表示しています。

↓

MOD キーを約 3 秒間押しします。メイン表示部には「-20.0」が点滅後、現在設定されているモード No. を表示します。
※本器ご購入後、初めて設定される場合は、工場出荷時初期設定値のモード 11(誤差比率モード)が表示されます。

↓

数値入力キーを押すたびに、次のモード No. へ表示が変わります。

11 → 12 → 13 → 14 → 15 → 16
└──────────┘
99

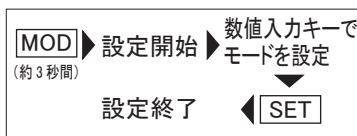
↓

SET キーを押します。
モード 12(絶対比率モード)での表示になります。

設定終了

※ 0: 点灯
0: 点滅
□: 数値入力不可

設定方法



現在の表示から MOD キーを約 3 秒間押し、モードの設定を開始します。数値入力キーによる設定が終われば、SET キーで設定終了です。

◎設定上の注意事項

モードの設定を変更すると、パラメータ^{※1}、ファンクション^{※2}、上下限値の各設定値は、すべて工場出荷時初期設定値になります。

※1 下記参照

※2 P11 参照

次はパラメータ(条件)を設定していきます。

パラメータ（条件）の設定項目

パラメータは各モードにより、設定事項の内容が異なります。下表と設定したい項目を照らし合わせて、設定を行なってください。設定方法については、次ページをご参照ください。

※テストモード(モード 99)には、パラメータはありません。

※パラメータの設定が不要の場合は、そのまま(工場出荷時初期設定値)でご利用いただけます。

●誤差比率モード(モード 11)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	1 回転あたりのパルス数 A 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P2	検出部の回転数 A 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P3	表示したい値(小数点表示) A 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P4	1 回転あたりのパルス数 B 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P5	検出部の回転数 B 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P6	表示したい値(小数点表示) B 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P7	表示単位	0(×1)/(%)	0	×1
P8	表示小数点位置	10 ¹ ~ 10 ⁴	00000.	小数点なし
P9	表示周期	0.2/0.5/1/2/5/10/15/30/60 秒	1.0	1 秒
P10	オートゼロ時間	0.1 ~ 150 秒	006.0	6 秒
P11	入力フィルタ	10/30/100/0.02kHz	10	10kHz
P12	入力基準側の選択	1(A 入力)/2(B 入力)	1	A 入力

●絶対比率モード(モード 12)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	1 回転あたりのパルス数 A 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P2	検出部の回転数 A 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P3	表示したい値(小数点表示) A 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P4	1 回転あたりのパルス数 B 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P5	検出部の回転数 B 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P6	表示したい値(小数点表示) B 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P7	表示単位	0(×1)/(%)	0	×1
P8	表示小数点位置	10 ¹ ~ 10 ⁴	00000.	小数点なし
P9	表示周期	0.2/0.5/1/2/5/10/15/30/60 秒	1.0	1 秒
P10	オートゼロ時間	0.1 ~ 150 秒	006.0	6 秒
P11	入力フィルタ	10/30/100/0.02kHz	10	10kHz
P12	入力基準側の選択	1(A 入力)/2(B 入力)	1	A 入力

●濃度比率モード(モード 13)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	1 回転あたりのパルス数 A 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P2	検出部の回転数 A 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P3	表示したい値(小数点表示) A 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P4	1 回転あたりのパルス数 B 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P5	検出部の回転数 B 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P6	表示したい値(小数点表示) B 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P7	表示単位	0(×1)/(%)	0	×1
P8	表示小数点位置	10 ¹ ~ 10 ⁴	00000.	小数点なし
P9	表示周期	0.2/0.5/1/2/5/10/15/30/60 秒	1.0	1 秒
P10	オートゼロ時間	0.1 ~ 150 秒	006.0	6 秒
P11	入力フィルタ	10/30/100/0.02kHz	10	10kHz
P12	入力基準側の選択	1(A 入力)/2(B 入力)	1	A 入力

●回転数差モード(モード 14)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	1 回転あたりのパルス数 A 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P2	検出部の回転数 A 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P3	表示したい値(小数点表示) A 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P4	1 回転あたりのパルス数 B 入力	1 ~ 9999P/r	0001	1P/r
P5	検出部の回転数 B 入力	1 ~ 99999	01000	1000rpm
P6	表示したい値(小数点表示) B 入力	1 ~ 99999	01000.	1000
P7	表示小数点位置	10 ¹ ~ 10 ⁴	00000.	小数点なし
P8	表示周期	0.2/0.5/1/2/5/10/15/30/60 秒	1.0	1 秒
P9	オートゼロ時間	0.1 ~ 150 秒	006.0	6 秒
P10	入力フィルタ	10/30/100/0.02kHz	10	10kHz
P11	入力基準側の選択	1(A 入力)/2(B 入力)	1	A 入力

●2 点間通過速度モード(モード 15)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	2 点間距離	0.1 ~ 999.9	100.0	100m
P2	2 点間距離通過速度	1 ~ 99999	01000	1000msec
P3	表示したい値(小数点表示)	1 ~ 99999	01000.	1000msec
P4	オートゼロ時間	0.1 ~ 3600 秒	3600.0	3600 秒
P5	入力フィルタ	10/0.02kHz	10	10kHz

●2 点間時間差モード(モード 16)の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定値	
			表示	内容
P1	時分秒と 1/100 秒の切替	0:00:00/000:00	0:00	1/100 秒
P2	オートゼロ時間	0.1 ~ 3600 秒	3600.0	3600 秒
P3	入力フィルタ	10/0.02kHz	10	10kHz

パラメータ（条件）の設定

■パラメータの設定

パラメータの設定には、設定項目により数値入力式のパラメータと設定値選択式のパラメータの2種類があります。

※9ページをご参照ください。

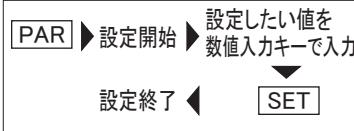
(1) 数値入力式パラメータ

数値入力キーで設定数値を入力するパラメータです。

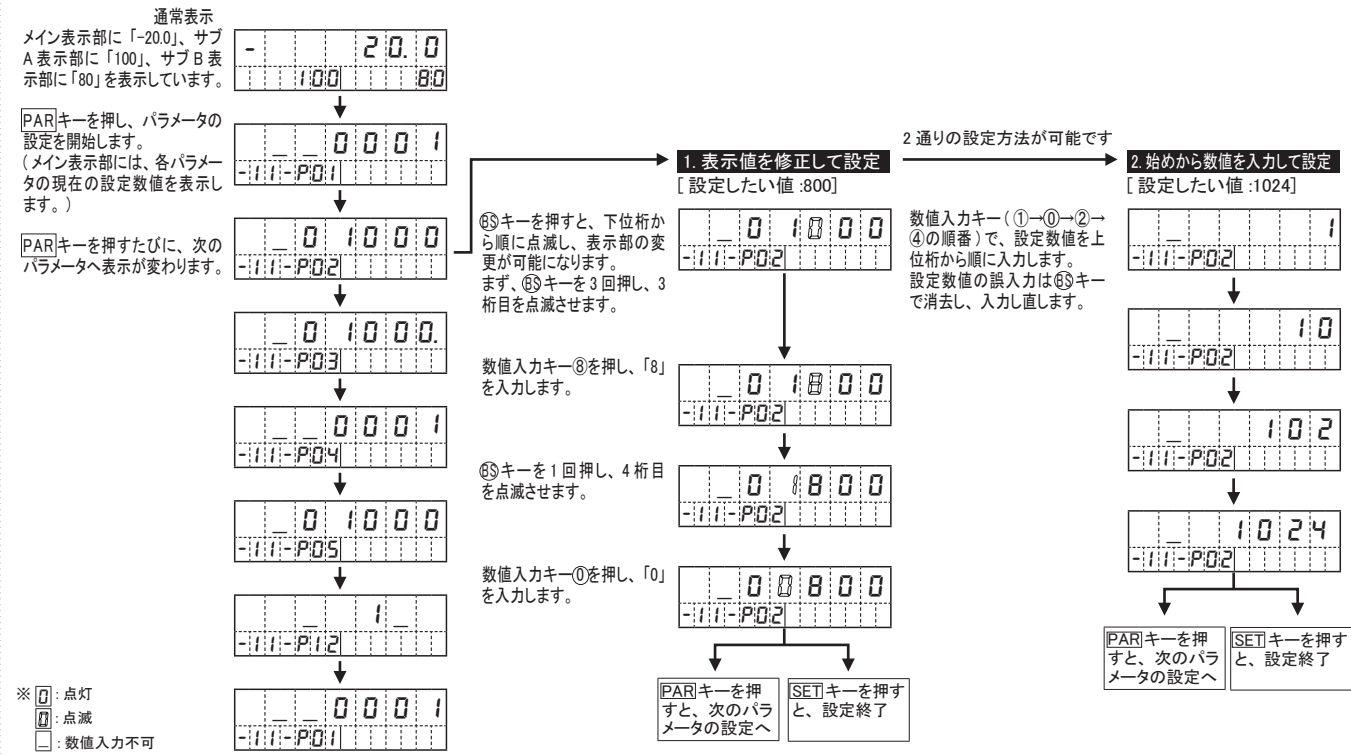
例えば「856」を設定する場合、数値入力キーで⑧→⑤→⑥と入力します。

例：モード11(誤差比率モード)のとき、パラメータ2(検出部の回転数A入力：800/1024)を設定します。

設定方法



現在の表示から[PAR]キーを押し、パラメータの設定を開始します。数値入力キーによる設定が終われば、[SET]キーで設定終了です。



◎設定上の注意事項

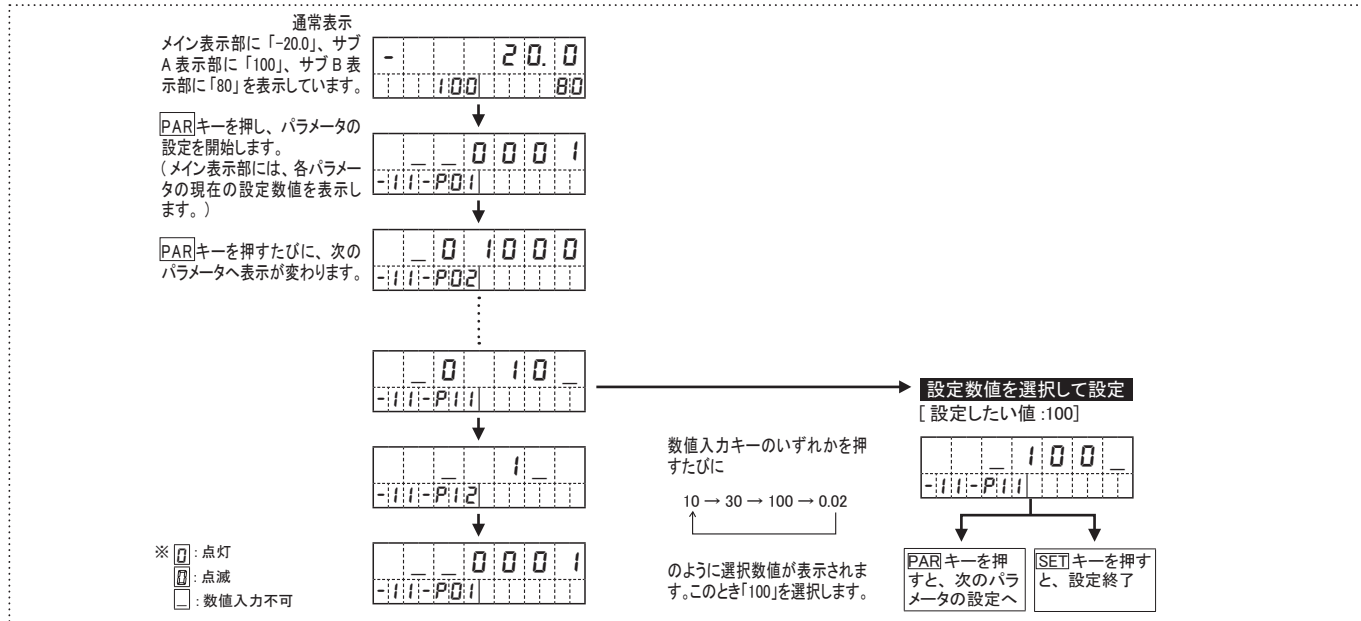
設定範囲外の数値を入力すると、入力値全てが点滅し、設定不可を示します。このとき、数値入力キーのいずれかを押すと、入力前の数値が表示され、設定のやり直しが可能となります。

(2) 設定数値選択式パラメータ

数値入力キー(①～⑥のいずれのキーでも可能)を押して、いくつかの選択数値の中から設定数値を設定するパラメータです。例えば、モード11(誤差比率モード)のパラメータ9(表示周期)の選択範囲「0.2/0.5/1.0/2.0/5.0/10/15/30/60」の中から「10」を設定する場合、数値入力キーのいずれかを押して、「10」*を表示させ、設定します。

※数値入力キーを押すごとに次のように表示が変わります。 0.2 → 0.5 → 1.0 → 2.0 → 5.0
60 ← 30 ← 15 ← 10 ←

例：モード11(誤差比率モード)のとき、パラメータ11(入力フィルタ：100)を設定します。



ファンクション（動作形態）の設定項目

ファンクション設定項目の内容は、各モード共通です。下表と設定したい項目を照らし合わせて、設定を行なってください。設定方法については次ページをご参照ください。

※テストモード（モード 99）には、ファンクションはありません。

●誤差比率モード（モード 11）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	0 ~ 99999	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(上下限値)/1(なし)/2(回転速度)	0	比較値
F6	最小回転速度	0 ~ 99999rpm	00000	0rpm
F7	移動平均回数	0(なし)/1(3回)/2(10回)	0	なし
F8	予測演算機能	0(なし)/1(あり)	0	なし
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	アナログ電圧出力値 ^{※注3}	0 ~ 99999	01000	1000で最大出力
F12	アナログ電圧出力最小値 ^{※注3}	0 ~ 99999	00010	10以下は0
F13	アナログ電圧出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ電圧出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

●濃度比率モード（モード 13）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	0 ~ 99999	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(上下限値)/1(なし)/2(回転速度)	0	比較値
F6	最小回転速度	0 ~ 99999rpm	00000	0rpm
F7	移動平均回数	0(なし)/1(3回)/2(10回)	0	なし
F8	予測演算機能	0(なし)/1(あり)	0	なし
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	アナログ電圧出力値 ^{※注3}	0 ~ 99999	01000	1000で最大出力
F12	アナログ電圧出力最小値 ^{※注3}	0 ~ 99999	00010	10以下は0
F13	アナログ電圧出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ電圧出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

●2点間通過速度モード（モード 15）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	0 ~ 99999	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(上下限値)/1(なし)/2(回転速度)	0	比較値
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	アナログ電圧出力値 ^{※注3}	0 ~ 99999	01000	1000で最大出力
F12	アナログ電圧出力最小値 ^{※注3}	0 ~ 99999	00010	10以下は0
F13	アナログ電圧出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ電圧出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

※()内は各表示の内容です。

※注1 上限値はサブ A 表示部、下限値はサブ B 表示部で表示を行います。
 ※注2 ファンクション 10 は第 2 オプション DOP-BCDR 装着時のみ設定できます。
 ※注3 ファンクション 11 ~ 14 は第 2 オプション DOP-FVCR 装着時に設定出来ます。
 ※注4 入力周波数 200Hz 以上のとき。

◎移動平均についてくモード 15(2点間通過速度モード)、モード 16(2点間時間差モード)を除く

ファンクション 7 で移動平均測定 of 平均回数を選択できます。パラメータ 8、または 9[※](表示周期)で設定した周期で計算を行い、ファンクション 7 で設定した回数を平均化して表示します。

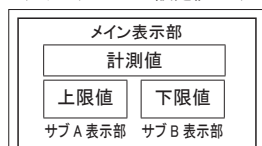
※パラメータ 8(表示周期) : モード 14(回転数差モード)

パラメータ 9(表示周期) : モード 11(誤差比率モード)、モード 12(絶対比率モード)、モード 13(濃度比率モード)

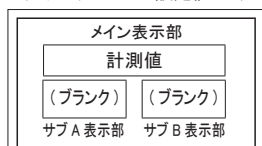
◎表示について

表示パターンはファンクション 5(サブ表示部の表示選択)で、次の 3 つの中から設定します。

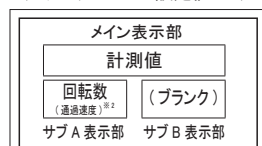
・表示パターン①
(ファンクション 5 設定値 : 0)



・表示パターン②
(ファンクション 5 設定値 : 1)



・表示パターン③^{※1}
(ファンクション 5 設定値 : 2)



※1 モード 16(2点間時間差モード)を除く
 ※2 モード 15(2点間通過速度モード)のときは通過速度を表示

●絶対比率モード（モード 12）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	0 ~ 99999	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(上下限値)/1(なし)/2(回転速度)	0	比較値
F6	最小回転速度	0 ~ 99999rpm	00000	0rpm
F7	移動平均回数	0(なし)/1(3回)/2(10回)	0	なし
F8	予測演算機能	0(なし)/1(あり)	0	なし
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	アナログ電圧出力値 ^{※注3}	0 ~ 99999	01000	1000で最大出力
F12	アナログ電圧出力最小値 ^{※注3}	0 ~ 99999	00010	10以下は0
F13	アナログ電圧出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ電圧出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

●回転数差モード（モード 14）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	0 ~ 99999	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(上下限値)/1(なし)/2(回転速度)	0	比較値
F6	最小回転速度	0 ~ 99999rpm	00000	0rpm
F7	移動平均回数	0(なし)/1(3回)/2(10回)	0	なし
F8	予測演算機能	0(なし)/1(あり)	0	なし
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	アナログ電圧出力値 ^{※注3}	0 ~ 99999	01000	1000で最大出力
F12	アナログ電圧出力最小値 ^{※注3}	0 ~ 99999	00010	10以下は0
F13	アナログ電圧出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ電圧出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

●2点間時間差モード（モード 16）の場合

No.	設定項目	設定範囲	初期設定	
			表示	内容
F1	上限値、下限値 ^{※注1}	時分秒表示 0:00:00 ~ 9:59:59 秒表示 0:00 ~ 999:99	00000	0
F2	上下限値のヒステリシス	0 ~ 99	00	0
F3	上下限値の設定禁止	0(許可)/1(禁止)	0	許可
F4	起動時の判定出力タイマ	0 ~ 99 秒	00	0 秒
F5	サブ表示器の表示選択	0(比較値)/1(なし)	0	比較値
F10	BCD 出力の論理 ^{※注2}	0(負論理)/1(正論理)	0	負論理
F11	最大アナログ信号出力表示値 ^{※注3}	時分秒表示 0:00:00 ~ 0:59:59 秒表示 0:00 ~ 999:99	010:00	10秒で最大出力
F12	最小アナログ信号出力表示値 ^{※注3}	時分秒表示 0:00:00 ~ 0:59:59 秒表示 0:00 ~ 999:99	000:10	0.1以下は0
F13	アナログ信号出力周期 ^{※注3}	0(約10msec) ^{※注4} /1(表示周期)	0	約10msec ^{※注4}
F14	アナログ信号出力オフセット ^{※注3}	-100 ~ 0 ~ 100%	000.0	0%

F7	0	1	2
移動平均回数	なし	3回	10回

ファンクション（動作形態）の設定

■ ファンクションの設定

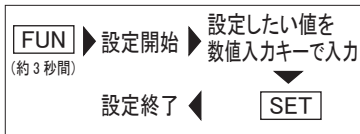
ファンクションの設定には、設定項目により数値入力式のファンクションと設定値選択式のファンクションの2種類があります。

※ 11 ページをご参照ください。

注) 各モードのファンクション 10 ~ 14 については、次の通りオプション装着時のみ設定できます。

- ファンクション 10 : 出力用オプション DOP-BCDR 装着時
- ファンクション 11 ~ 14 : 出力用オプション DOP-FVCR 装着時

設定方法



現在の表示から[FUN]キーを押し、ファンクションの設定を開始します。数値入力キーによる設定が完了すれば、[SET]キーで設定終了です。

(1) 数値入力式ファンクション

数値入力キーで設定数値を入力するファンクションです。例えば「700」を設定する場合、数値入力キーで⑦→①→①→①と入力します。

例：モード 11(誤差比率モード) のとき、ファンクション 6(最小回転数 250/1024) を設定します。

通常表示
メイン表示部に「-20.0」、サブ A 表示部に「100」、サブ B 表示部に「80」を表示しています。

[FUN]キーを押し、ファンクションの設定を開始します。(メイン表示部、またはサブ表示部²⁾には各ファンクションの現在の設定数値を表示します。)

[FUN]キーを押すたびに、次のファンクションへ表示が変わります。

⑤キーを押すと、下位桁から順に点滅し、表示部の変更が可能になります。まず、⑥9キーを2回押し、2桁目を点滅させます。

数値入力キー⑤を押し、「5」を入力します。

⑥9キーを1回押し、3桁目を点滅させます。

数値入力キー②を押し、「2」を入力します。

⑥9キーを押すと、下位桁から順に点滅し、表示部の変更が可能になります。まず、⑥9キーを2回押し、2桁目を点滅させます。

数値入力キー⑤を押し、「5」を入力します。

⑥9キーを1回押し、3桁目を点滅させます。

数値入力キー②を押し、「2」を入力します。

2通りの設定方法が可能です

1. 表示値を修正して設定 [設定したい値:250]

2. 始めから数値を入力して設定 [設定したい値:1024]

数値入力キー(①→①→①→②→④の順番)で、設定数値を上位桁から順に入力します。設定数値の誤入力は⑥9キーで消去し、入力し直します。

※ ①: 点灯
②: 点滅
③: 数値入力不可

※各モードのファンクション 1 については、設定項目が上上限値、下下限値であるために、メイン表示部にはファンクション No. を表示し、サブ表示部(サブ A 表示部: 上上限値、サブ B 表示部: 下下限値)に現在の設定数値を表示します。設定数値の入力方法は上下限値の設定と同様です。(次ページ参照)

[FUN]キーを押すと、次のファンクションの設定へ

[SET]キーを押すと、設定終了

◎ 設定上の注意事項

設定範囲外の数値を入力すると、入力値全てが点滅し、設定不可を示します。

このとき、数値入力キーのいずれかを押し、入力前の数値が表示され、設定のやり直しが可能となります。

(2) 設定数値選択式ファンクション

数値入力キー(①~⑥)のいずれのキーでも可能)を押して、いくつかの選択数値の中から設定数値を設定するファンクションです。

例えば、モード 11(誤差比率モード)のファンクション 7(平均移動回数)の選択範囲「0/1/2」の中から「1」を設定する場合、数値入力キーのいずれかを押し、「1」*を表示させ、設定します。

※数値入力キーを押すごとに次のように表示が変わります。0 → 1 → 2

例：モード 11(誤差比率モード) のとき、ファンクション 5(サブ表示部の表示: 2) を設定します。

通常表示
メイン表示部に「-20.0」、サブ A 表示部に「100」、サブ B 表示部に「80」を表示しています。

[FUN]キーを押し、ファンクションの設定を開始します。(メイン表示部、またはサブ表示部には、各ファンクションの現在の設定数値を表示します。)

[FUN]キーを押すたびに、次のファンクションへ表示が変わります。

数値入力キーのいずれかを押すたびに 0 → 1 → 2 のように選択数値が表示されます。このとき「2」を選択します。

設定数値を選択して設定 [設定したい値:2]

[FUN]キーを押すと、次のファンクションの設定へ

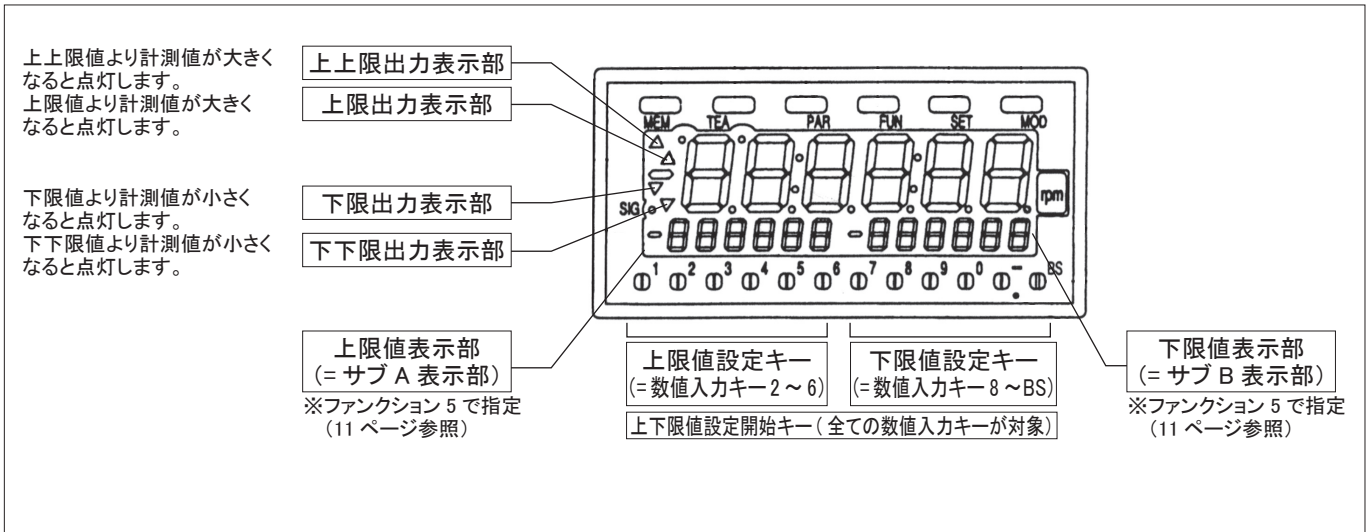
[SET]キーを押すと、設定終了

※ ①: 点灯
②: 点滅
③: 数値入力不可

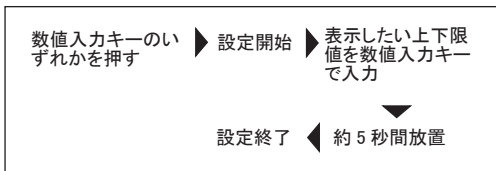
上下限値の設定

設定した上限値より大きい、または設定した下限値より小さいとき、各出力表示部（下記参照）が点灯します。

● 上下限値設定時に使用するキーとその用途



設定方法



現在の表示から数値入力キーを押して、上下限値の設定を開始します。数値入力キー※による設定後約 5 秒間放置しておくだけで設定終了です。

※ 上下限値設定キー (= 数値入力キー)

設定したい上下限値 (5 桁まで) を入力する際、上下限値の各桁に対応している数値入力キーは次の通りです。

【上限値設定キー】

設定したい上限値の桁	5	4	3	2	1
数値入力キー	2	3	4	5	6

【下限値設定キー】

設定したい下限値の桁	5	4	3	2	1
数値入力キー	8	9	0	-	BS

数値入力キーを押すたびに、 のように表示が変わります。

例：通常表示（計測）時に、数値入力キー①～⑥を押して、上下限値の設定を開始します。設定したい上限値は「700」、下限値は「500」です。

〔上記例で設定〕

通常表示
メイン表示部に「100」、サブ A 表示部に「150」、サブ B 表示部に「70」を表示しています。
※本器ご購入後初めて設定される場合は、上下限値共に 0 を表示します。（工場出荷時初期設定値）



数値入力キー①～⑥のいずれかを押して、上下限値の設定を開始します。



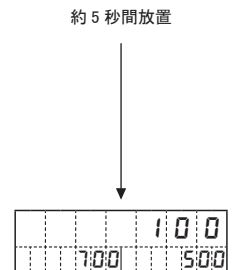
数値入力キーで設定数値（上下限値）を入力します。（左表参照）



- ・ 上限値の入力（サブ A 表示部）
3 桁目：数値入力キー④を 6 回押し、「7」を入力します。
2 桁目：数値入力キー⑤を 5 回押し、「0」を入力します。
1 桁目：表示値が「0」なので、設定を行なう必要はありません。

- ・ 下限値の入力（サブ B 表示部）
3 桁目：数値入力キー⑩を 5 回押し、「5」を入力します。
2 桁目：数値入力キー①を 3 回押し、「0」を入力します。
1 桁目：表示値が「0」なので、設定を行なう必要はありません。

上下限値入力後、約 5 秒間放置します。表示は通常表示に戻ります。



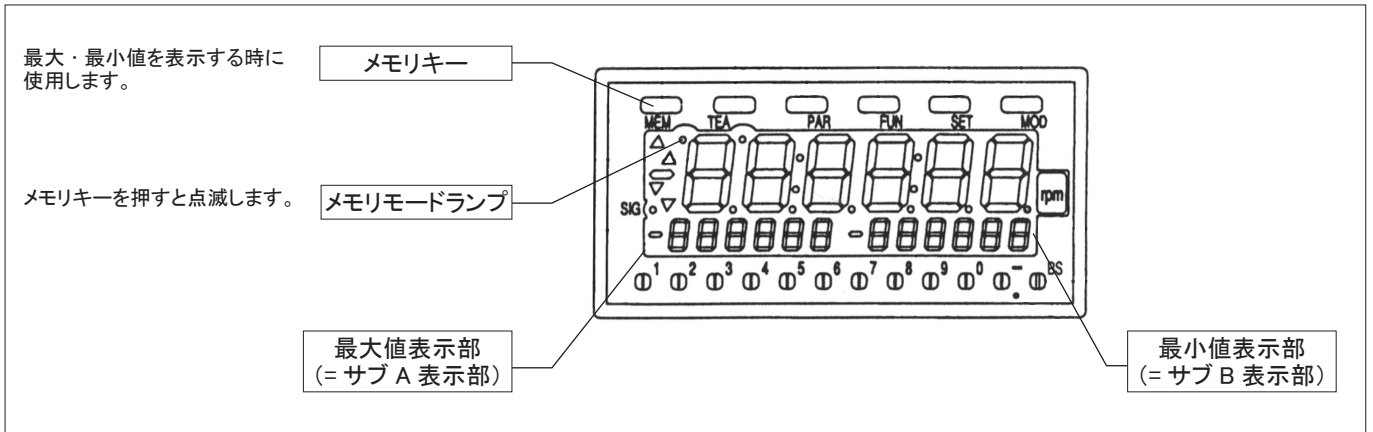
- ※ : 点灯
- : 点滅
- : 数値入力不可

設定終了

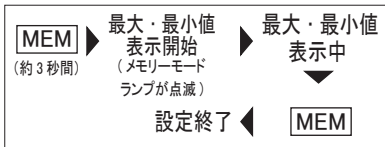
メモリ機能（最大・最小値の表示）の設定

通常の計測を行ないながら、最大値（サブ A 表示部に表示）、最小値（サブ B 表示部に表示）を同時に確認できる機能です。

●メモリ機能設定時に使用するキーとその用途



設定方法



現在の表示から **MEM** キーを押し、最大・最小値の表示を開始します。次に **MEM** キーを押すまでの間、最大・最小値を表示します。

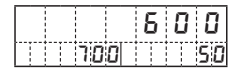
例：通常表示（計測）時に、**MEM** キーを押し、メモリ機能を開始します。その時、最大値は「700」、最小値は「50」と測定します。

[上記例で設定]

通常表示
メイン表示部に「100」、サブ A 表示部に「150」を表示しています



MEM キーを押すと、メモリ機能を開始します。次に **MEM** キーを押すまでの間、サブ A 表示部に最大値、サブ B 表示部に最小値を表示しています。
※メモリ機能中、最大・最小値は変化します。



MEM キーを押します。
表示は通常表示に戻ります。



設定終了

- ※ : 点灯
- : 点滅
- : 数値入力不可

エラー表示

DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR 共に、使用上で異常が発生すれば表示でお知らせします。その表示内容と次の表を照合していただき、適切な処置をお願いします。

表示部	表示	エラー内容	処置
メイン表示部	-----	表示オーバーフロー時（表示値が表示可能桁数を越えたとき）に表示します。	入力パルスが入ったとき、または計測側範囲内（表示可能桁数）になると計測値を表示します。
メイン表示部	EE-1	モード 15(2 点間通過速度モード)、16(2 点間時間差モード)において時間幅が 10msec 以下のときに表示します。	時間幅を計測範囲内にしてください。
メイン表示部	EE-2	合わせ込み機能の範囲外のとき（入力回転数が 99,999 以上）、表示します。	入力回転を下げて、合わせ込み機能を行ってください。
メイン表示部	EE-3	内部メモリー呼出異常	[SET] キーを押して、エラー表示を解除してください。 ^{注)}

※上記以外の異常が発生した場合は、お問合せください。

注)パラメータが初期値になる場合があるので、その際は各パラメータを設定してください。

また、EE-3 の表示が解除できない場合はお問い合わせください。

オプション (DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR) 共通

DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR 共に、オプション付をご購入されたお客さまは、オプション型式、仕様、接続をお確かめのうえ、正しくお使いください。

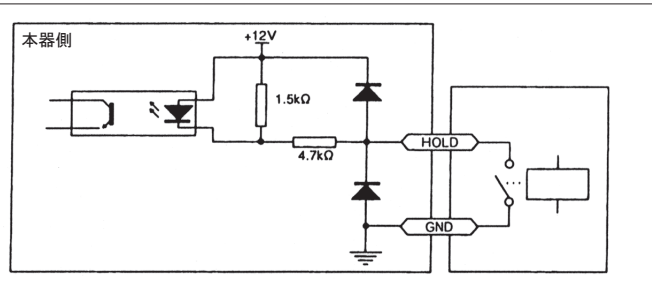
出力用オプション **DOP-BCDR** BCD 出力

●仕様

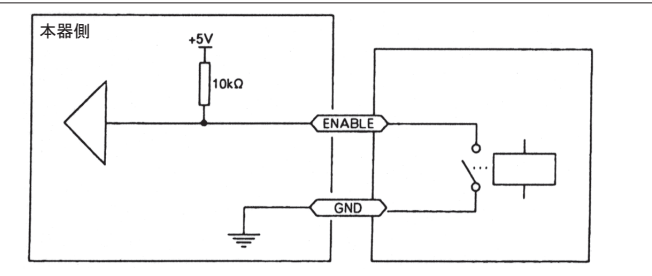
型式	DOP-BCDR	
NPN オープンコレクタ出力	最大開閉能力	DC30V 20mA
オープンコレクタ入力	オープンコレクタ (NPN) 用入力	
	LO 入力	負荷容量 5mA 以上 0 ~ 1.5V
	HI 入力	漏れ電流 0.1mA 以下
データ出力	6桁 BCD コード ²⁾	
少数点出力	DP1 ~ 4 (10 ⁻¹ ~ 10 ⁻⁴ 桁)	
制御出力	PLUS	データ出力が正の場合、この信号が LO になる
	DT OUT	この信号が LO のとき、出力信号が確定している
制御入力	OVR	表示値がオーバーフローすると、この信号が LO になる
	HOLD	この信号が LO の期間、データを更新しない
使用コネクタ	ENABLE	この信号が LO の期間、出力が全て HI になる
	本体側: PCS-E36LMD 付属差込側: プラグ PCS-E36FS、カバー PCS-E36LA (共に本多通信製)	
負論理オープンコレクタ入出力		

※ケーブルの接続はお客さまにてお願いします。

HOLD 入力回路



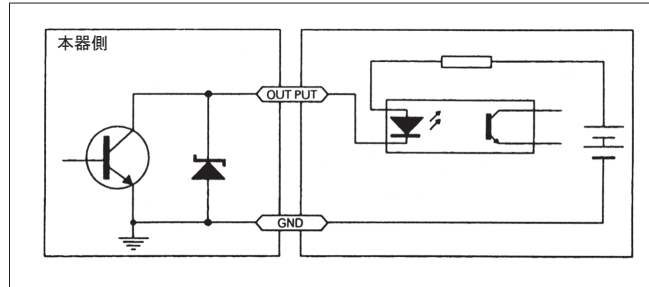
ENABLE 入力回路



●接続 (コネクタの接続)

入出力	記号	ピン番号			記号	入出力
出力	× 10 ⁰	1	1	19	1	× 10 ⁰
		2	2	20	2	
		4	3	21	4	
		8	4	22	8	
	× 10 ¹	1	5	23	1	× 10 ¹
		2	6	24	2	
		4	7	25	4	
		8	8	26	8	
	× 10 ²	1	9	27	1	× 10 ²
		2	10	28	2	
		4	11	29	4	
		8	12	30	8	
入力	PLUS	13	31	DP1		
	DT OUT	14	32	DP2		
	OVR	15	33	DP3		
	HOLD	16	34	DP4		
	ENABLE	17	35	GND		
	GND	18	36	GND		

出力回路



出力用オプション **DOP-FVCR** アナログ信号出力

●仕様

型式	DOP-FVCR		
出力	電流出力	4 ~ 20mA	このうち 1つの出力を選ぶ。
	電圧出力	0 ~ 10V 比率計で - を表示する場合は ± 10V	
		1 ~ 5V 0 ~ 1V 比率計で - を表示する場合は ± 10V	
負荷	電流出力	500Ω 以下	
	電圧出力	1kΩ 以上	
使用コネクタ [※]	本体側: PCS-E36LMD 付属差込側: プラグ PCS-E36SF、カバー PCS-E36LA (共に本多通信製)		

※ケーブルの接続はお客さまにてお願いします。

●接続 (コネクタの接続)

記号	ピン番号		記号
C+	1	19	C-
4 ~ 20mA+	2	20	4 ~ 20mA-
無接続	3	21	無接続
無接続	4	22	無接続
無接続	5	23	無接続
無接続	6	24	無接続
無接続	7	25	無接続
無接続	8	26	無接続
V10+	9	27	V10-
0 ~ 10V+	10	28	0 ~ 10V-
無接続	11	29	無接続
無接続	12	30	無接続
V5+	13	31	V5-
1 ~ 5V+	14	32	1 ~ 5V-
無接続	15	33	無接続
無接続	16	34	無接続
V1+	17	35	V1-
0 ~ 1V+	18	36	0 ~ 1V-

※このうち 1つの出力を使用してください。

DT-5TXR-RMTR・DT-5TXR-DRTR/DT-5TFR-RMTR・DT-5TFR-DRTR シリーズ一覧

この取扱説明書は、以下の型式に適用します。

型 式		比率用オプション		出力用オプション	
AC 電源仕様	DC 電源仕様				
DT-5TXAR-RMTR	DT-5TXDR-RMTR	DOP-RMTR	差動入力	-	
DT-5TXAR-RMTR-FVCR	DT-5TXDR-RMTR-FVCR			DOP-FVCR	アナログ信号出力
DT-5TXAR-RMTR-BCDR	DT-5TXDR-RMTR-BCDR			DOP-BCDR	BCD 出力
DT-5TXAR-DRTR	DT-5TXDR-DRTR	DOP-DRTR	差動入力	-	
DT-5TXAR-DRTR-FVCR	DT-5TXDR-DRTR-FVCR			DOP-FVCR	アナログ信号出力
DT-5TXAR-DRTR-BCDR	DT-5TXDR-DRTR-BCDR			DOP-BCDR	BCD 出力
DT-5TFAR-RMTR	DT-5TFDR-RMTR	DOP-RMTR	基本入力	-	
DT-5TFAR-RMTR-FVCR	DT-5TFDR-RMTR-FVCR			DOP-FVCR	アナログ信号出力
DT-5TFAR-RMTR-BCDR	DT-5TFDR-RMTR-BCDR			DOP-BCDR	BCD 出力
DT-5TFAR-DRTR	DT-5TFDR-DRTR	DOP-DRTR	差動入力	-	
DT-5TFAR-DRTR-FVCR	DT-5TFDR-DRTR-FVCR			DOP-FVCR	アナログ信号出力
DT-5TFAR-DRTR-BCDR	DT-5TFDR-DRTR-BCDR			DOP-BCDR	BCD 出力

※ DOP-RMTR または DOP-DRTR は比率用オプションですが、出荷時にはセット（内蔵）されています。

※ 基本入力、差動入力の詳細については、下記ページをご参照ください。

基本入力：P 5 「入力仕様 DOP-RMTR」

差動入力：P 6 「入力仕様 DOP-DRTR」

※ 出力オプションの詳細については、P17 ~ 18 をご参照ください。

ニデックドライブテクノロジー株式会社

各種 WEB ページご案内



お電話・問合せフォームでのお問い合わせはこちら

<https://www.nidec.com/jp/nidec-drivetechnology/inquiry/>



国内外営業拠点情報

<https://www.nidec.com/jp/nidec-drivetechnology/corporate/network/sales/>

Copyright NIDEC DRIVE TECHNOLOGY Corporation. All Rights Reserved.

ニデックドライブテクノロジー株式会社

日本電産シンボ株式会社は 2023年4月1日に「ニデックドライブテクノロジー株式会社」に社名変更しました